令 和 6 年 8 月 6 日
名 古 屋 地 方 気 象 台

東海地方の天候（令和６年７月）

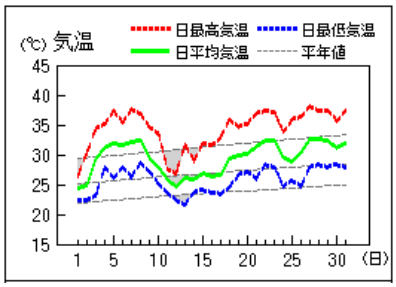
1　概況

梅雨前線や湿った空気の影響で大雨となった日もありましたが、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。暖かい空気に覆われて日射も強かったため、月平均気温はかなり高く1946年の統計開始以降、7月として第１位の高温となりました。また、月降水量は少なく、月間日照時間は多くなりました。なお、東海地方では18日ごろに梅雨明け（速報値）したと見られます。

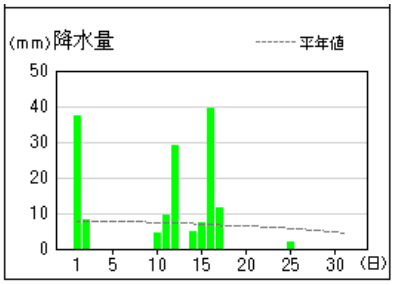
月平均気温は「かなり高い」、月降水量は「少ない」、月間日照時間は「多い」となりました。

旬ごとの概況	
上旬	旬のはじめと終わりには低気圧や梅雨前線の影響で雨が降りましたが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。このため、旬降水量は少なく、旬間日照時間は多くなりました。また、暖かい空気に覆われて日射も強かったため、旬平均気温はかなり高く1946年の統計開始以降、7月上旬として第１位の高温となりました。 旬の平均気温は「かなり高い」、降水量は「少ない」、日照時間は「多い」となりました。
中旬	旬の中頃にかけて梅雨前線が日本付近に停滞したため、曇りや雨の日が多くなり、旬のはじめや中頃には広い範囲で大雨や荒れた天気となりました。このため、旬降水量は多くなりました。旬の終わりには高気圧の覆われて晴れた日が多くなりました。 旬の平均気温は「平年並」、降水量は「多い」、日照時間は「平年並」となりました。
下旬	旬の中頃には湿った空気や上空の寒気の影響でまとまった雨となった所もありましたが、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。このため、旬間日照時間はかなり多く、旬降水量は少なくなりました。また、暖かい空気に覆われて日射も強かったため、旬平均気温はかなり高く1946年の統計開始以降、7月下旬として第１位の高温となりました。 旬の平均気温は「かなり高い」、降水量は「少ない」、日照時間は「かなり多い」となりました。

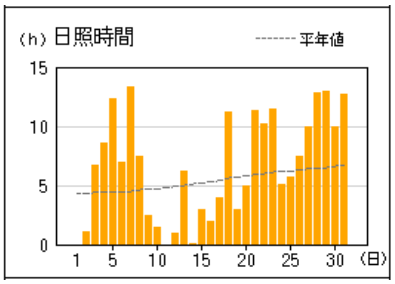
参考　時系列図（名古屋地方気象台）



最高・最低気温(太破線)、平均気温(太実線)と平年値(細破線)℃

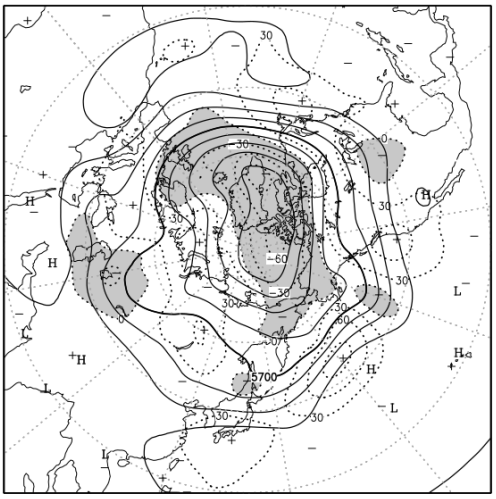


降水量と平年値(破線)mm



日照時間と平年値(破線)h

２　大気の流れの特徴

７月の500hPa天気図（高度・偏差）と解説	
 等値線間隔　実況（実線）60m、偏差（破線）30m 陰影域は負偏差	500hPa高度では、沿海州付近で平年より低かった一方、日本付近は本州南岸付近を中心に平年より顕著に高く、亜熱帯ジェット気流は平年より北を流れやすくなりました。このため、日本付近は暖かい空気に覆われやすく、北日本では南から暖かい空気が流れ込みやすくなりました。

３　各地の気象台・特別地域気象観測所の実況

地点名	平均気温（℃）	（平年差）（℃）	階級	降水量（mm）	（平年比）（%）	階級	降水日数 ≧1mm	日照時間（h）	（平年比）（%）	階級
静岡	29.3	(+3.2)	＋*	173.5	(58)	－	9	233.3	(148)	＋*
浜松	29.2	(+2.9)	＋*	84.0	(40)	－	7	253.3	(144)	＋*
御前崎	27.2	(+2.2)	＋*	168.5	(76)	○	8	246.7	(131)	＋
三島	28.9	(+2.9)	＋*	185.5	(83)	○	11	193.3	(129)	＋
石廊崎	26.9	(+2.4)	＋*	158.0	(78)	○	8	209.9	(124)	＋
網代	28.0	(+2.8)	＋*	162.5	(67)	－	10	221.1	(137)	＋*
名古屋	29.4	(+2.5)	＋*	154.0	(73)	○	10	205.0	(123)	＋
伊良湖	28.6	(+2.5)	＋*	87.5	(55)	－	8	260.1	(134)	＋*
岐阜	29.1	(+2.1)	＋*	261.5	(97)	○	13	194.5	(117)	＋
高山	24.8	(+1.3)	＋	257.0	(99)	○	18	142.0	(97)	○
津	29.2	(+2.4)	＋*	154.5	(89)	○	9	223.6	(124)	＋
上野	27.9	(+2.1)	＋*	179.5	(92)	○	7	202.6	(130)	＋
尾鷲	28.4	(+2.6)	＋*	73.0	(18)	－*	6	237.0	(149)	＋*
四日市	28.0	(+2.4)	＋*	216.0	(104)	○	11	202.0	(124)	＋
東海地方	----	(+2.5)	＋*	-----	(73)	－	--	-----	(129)	＋

注）1. 平年値は1991～2020年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

＋:高い（多い）　　○:平年並　　－:低い（少ない）

各階級の区分値は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が10個ずつになる）ように決めた。また、値が1991～2020年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「＋－」に* を付加した。この場合には以下のように表現できる。

かなり高い（多い）　　かなり低い（少ない）

3. 値の横に ）や ］がある場合は、月別値を求める際に使用したデータ（日別値）に欠測等が含まれていることを示す。）付きの値（準正常値）は通常のものと同様に扱うことができる。]付きの値（資料不足値）については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数（統計に用いた、品質が十分な日別値の数）を参考にするとともに、階級についても値と同様の品質であることに留意して使用されたい。なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

４　令和６年（2024 年）７月の順位更新表

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃	（西暦年）	開始年	平年値 ℃
1	名古屋	29.4	+2.5	29.3	(2018)	1890	26.9
	津	29.2	+2.4	28.8	(1994)	1889	26.8
	伊良湖	28.6	+2.5	28.1	(2004)	1947	26.1
	浜松	29.2	+2.9	28.1	(2004)	1883	26.3
	御前崎	27.2 =	+2.2	27.2	(2018)	1932	25.0
	静岡	29.3	+3.2	28.1	(2018)	1940	26.1
	三島	28.9	+2.9	28.2	(2018)	1930	26.0
	尾鷲	28.4	+2.6	27.7	(2023)	1939	25.8
	石廊崎	26.9	+2.4	26.7	(2018)	1939	24.5
	網代	28.0	+2.8	27.3	(2023)	1937	25.2
	四日市	28.0 =	+2.4	28.0	(1994)	1966	25.6
2	上野	27.9	+2.1	28.0	(2018)	1937	25.8
3	岐阜	29.1	+2.1	29.6	(2018)	1883	27.0

参考資料　平年並の範囲（東海地方）

７月	平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
上旬	-0.7 ～ +1.0℃	61 ～ 117%	67 ～ 134%
中旬	-0.6 ～ +0.8℃	47 ～ 129%	74 ～ 120%
下旬	-0.6 ～ +0.7℃	61 ～ 111%	89 ～ 118%
月	-0.3 ～ +0.6℃	76 ～ 109%	94 ～ 114%

資料の解説

・当資料に掲載されている天候の特徴や統計値は、現時点で得られている資料を取りまとめた速報です。

・「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の階級は、1991～2020 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が 10 個ずつになる）ように決めています。また、値が 1991～2020 年の観測値の下位または上位 10%に相当する場合には、「かなり低い（少ない）」「かなり高い（多い）」と表現します。